



JA南アルプス市
JA MINAMI-ALPS CITY

JA南アルプス市は自己改革に 全力で取り組んでいます。

JA南アルプス市は食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合として、農業者の所得増大、地域の活性化を実現するため、様々な自己改革に挑戦しています。

これからも、農業のさらなる成長を盛り上げていくため、一層スピードアップをして改革を進めます。

1

農作物の栽培指導を強化しています

オリジナル品種の生産拡大

重点品目の生産安定と高品質化

オウトウ「甲斐ルビー」「アルプス紅扇」モモ「夢みずき」スモモ「皇寿」カキ「大和百目」などオリジナル品種を増殖・増産し、生産拡大に取り組んでいます。またオリジナル品種のほか、ブドウ「シャインマスカット」並びにモモの大苗を生産し、組合員へ供給しています。



大苗の生産供給

モバイル糖度計の導入

持ち運びが可能で、果実を潰さずに糖度を測ることが出来るモバイル糖度計により、圃場で検査を実施し、高品質化に取り組んでいます。



モバイル糖度計

果樹の盗難被害を防ぐシステムを運用

果樹の盗難被害を防ぐため「圃場遠隔見守りシステム」を運用しています。



圃場遠隔見守りシステム

- ・中間管理事業として、164筆・96,571㎡の農地の賃借の仲介を行い、農地を活用しています。
- ・農作業受委託・育苗センター事業を通じ農家の支援を行っています。
- ・GAP(農業生産工程管理)食品安全、環境保全、労働安全等に取り組んでいます。
- ・地理的表示保護制度(GI)の導入を通じて、南アルプス市の特産農産物の利益を保護する取り組みを進めています。
- ・高品質化のため、メール配信による栽培指導を行なっています。

2

農業生産のコスト削減に取り組んでいます

農薬の価格引き下げ

農薬の主力20品目の価格を引き下げました。

肥料・農薬購入に応じて還元(実質的値引き)

肥料・農薬の購入に応じて、0.5%の還元金の実施をしています。前年度は240万円以上を還元致しました。



肥料の軽量化

肥料を使いやすく改良し作業効率が上昇

果樹専用肥料を軽量化(15kg)して労働コストを削減しました。



アグリガーデン南部店

資材コストの低減

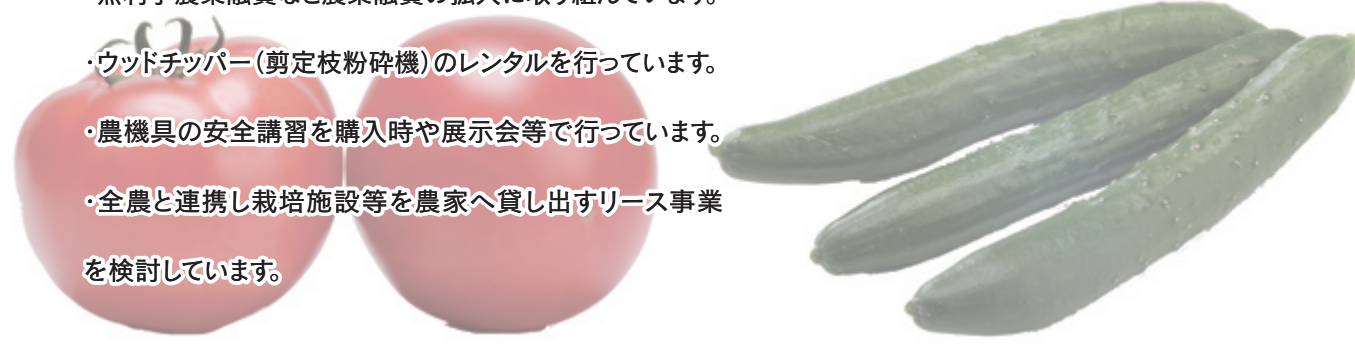
生産資材の統一、低コスト原紙の導入などで資材コストの低減を図っています。

また購買店舗を集約し、拠点型経済店舗アグリガーデン北部・南部店の2店舗を営業時間の延長や品ぞろえを増やし運営しています。さらに組合員宅へ配送システムの構築を目指します。



ウッドチップパーレンタル

- ・無利子農業融資など農業融資の拡大に取り組んでいます。
- ・ウッドチップパー(剪定枝粉碎機)のレンタルを行っています。
- ・農機具の安全講習を購入時や展示会等で行っています。
- ・全農と連携し栽培施設等を農家へ貸し出すリース事業を検討しています。



気軽に相談できるJAとして活動しています



果樹女性講座

農業講座を多数開催

新規就農者を対象に就農支援果樹講座(年22回)を、女性農業者を対象に果樹女性講座(年12回)を開催しています。

また、農産物直売所出荷者に対しても品質向上のため栽培講習会を開催しています。



相続アドバイザーによる講座

各種相談会も定期開催

年金・相続・税務・青色申告・営農融資などの相談会を月に1回程度開催し、専門担当者・税理士がアドバイスしています。**(相続相談会は本所の専門担当者が対応しています)**

また、当JAの相続アドバイザーによる講義なども開催しています。



葬祭事業すずらんホール甲西

葬祭に関する相談を随時受付

すずらんホールでは、葬祭相談に随時対応しています。ホールでは枕花のサービス、葬儀に必要な用具(座布団、椅子等)を取り揃えてあります。

また、生花等は安価(13,500円)で提供しています。



生活保障提案

・健康増進を目的とした味噌作り講習会を開催しています。
 ・地震・火災・事故・病気などの万が一に備えるため、37名のLA(ライフアドバイザー)が皆様の生命共済・建物共済・自動車共済等の保障の提案・見直しを行っております。

有利販売へ取組強化を行っています

様々なマーケティングを展開

南アルプス市産農産物を様々なマーケティング手法により有利販売し、農家の所得増大に取り組んでいます。

多様な販売形態

パッケージセンターを活用しながら、ネット販売・ゆうパック販売・輸出版売・直売所販売・ふるさと納税返礼品などにより2.2億円を販売しました。

また、氷感庫を使って果実を長期保存するなど有利販売に取り組んでいます。

地産地消・身土不二

直売所やAコープ白根・甲西店では地元で収穫された安心安全な農作物を提供しています。

農産物にちなんだイベントを開催

JAが運営する道の駅しらね農産物直売所では、6月のさくらんぼフェスをはじめ7月のピーチパレシタインデー、9月のブドウ祭り、11月のフルーツ俳句大会等を開催しています。

・県内外の消費者の皆様へ農産物の販売と産地の魅力のPR、ブランド化を目的として当組合PB(プライベートブランド)白ワイン「南アルプス原七郷甲州」や「南アルプスすももサイダー」の販売を行っています。



池袋駅で販売促進活動



シャインマスカットを氷感庫で保存



さくらんぼフェス



道の駅しらね 農産物直売所

協同の力で豊かで暮らしやすい 地域社会に貢献しています



AED・照明器具・テントなど

災害に備える

災害時には、市との防災協定によりAコープは食料品の提供を行います。すずらんホールでは南アルプス市・株式会社と三者の協定により、災害時には葬祭で使用する物資の提供や施設の開放を行います。また、発電機・照明器具・テントを用意し、災害などの万が一に備えています。

消防庁より、市内初の消防団協力事業所の表彰を受けています。



買い物バスの運行

買い物困難者・高齢者対策

買い物が困難な方のために、櫛形西地区を中心に買い物バスの運行や宅配サービスなどを行っています。

また、灯油の購入へ出かけるのが困難な方のために、灯油の定期配送の実施、おまかせ灯油配達を割引価格で行っています。



地域の見守り活動

地域防犯の取り組み

地域防犯や果樹盗難対策として、南アルプス警察署と連携して防犯パトロールカー（全15台を登録）による市内巡回活動を行っています。



認知症サポーター認定

認知症の方をサポート

認知症への理解を深め、適切な対応を身に着けるため、認知症サポーターを職員の75%が取得しています。

・24時間利用できるコイン精米機(8台)を設置しております。

地域住民の健康管理

地元食材を利用した料理コンテストの開催や市・JA厚生連と連携した健診・健康教室・運動講座などの健康管理活動を行っています。

血圧測定もAコープ白根・甲西 直売所 本所で気軽に来、南アルプス市健康リーグにも協賛しています。



JA女性部のウォーキング教室

地域イベントに参加

ふれあいまつり(10月)をはじめ、さくらんぼフェス(6月)などのイベントを開催し、ふれあいまつりには毎年1万人以上のご来場を頂いております。

また、南アルプス市の地域イベント 凧揚げ大会(4月)桃源郷マラソン(4月)サマーフェスティバル(7月)高尾穂見神社夜祭り(11月)十日市祭典(2月)などに協力出店などを行っています。



ふれあいまつり

緊急事態に備える

JA管内支所・Aコープ・すずらんホールなど全体で33台のAEDを設置してあります。(地域の各種団体のイベントに貸出を行っています)



女性大学の料理教室

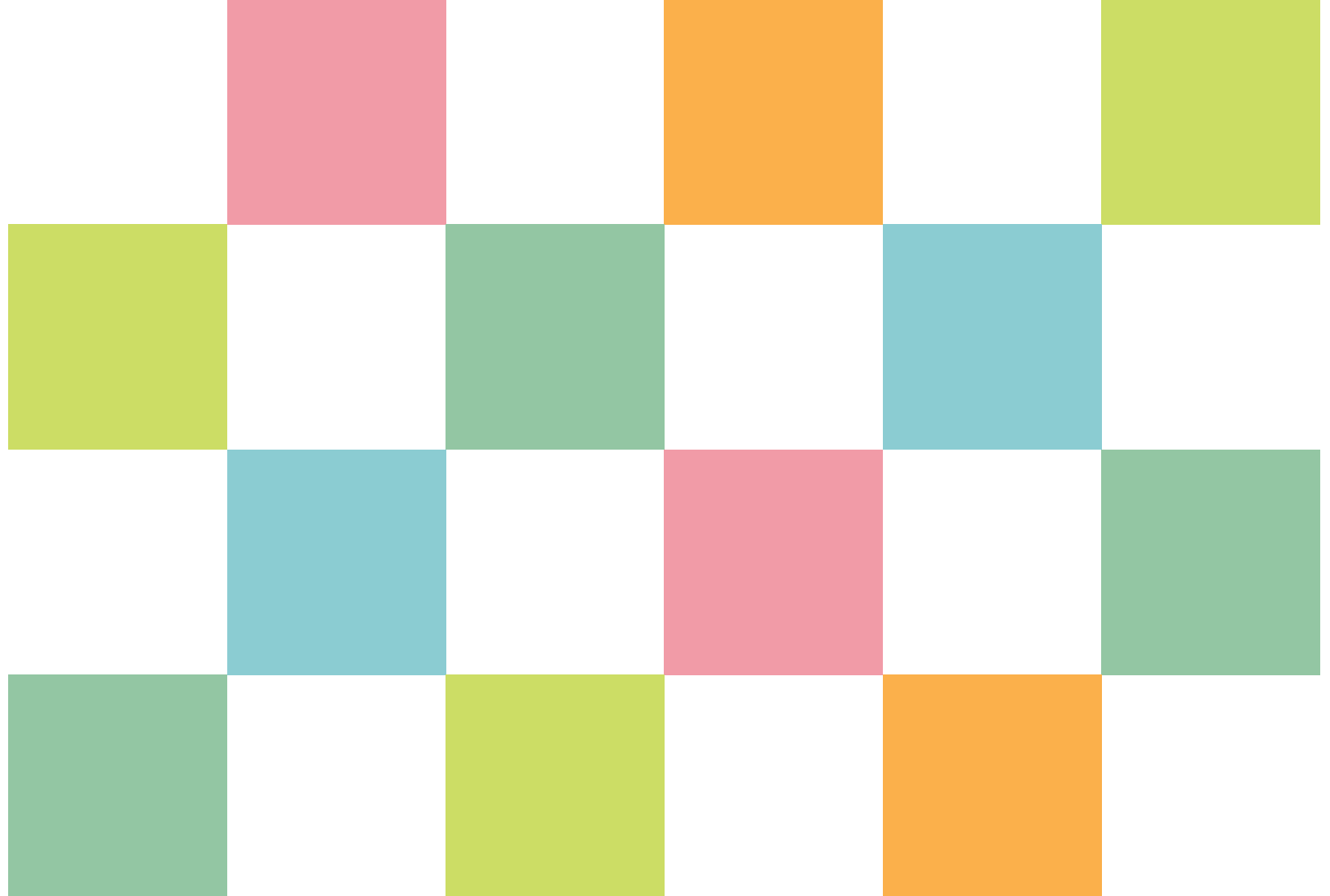
1支所1活動

・清掃活動や地区の行事を1支所1活動として実施しています。



1支所1活動 公会堂に花を贈呈



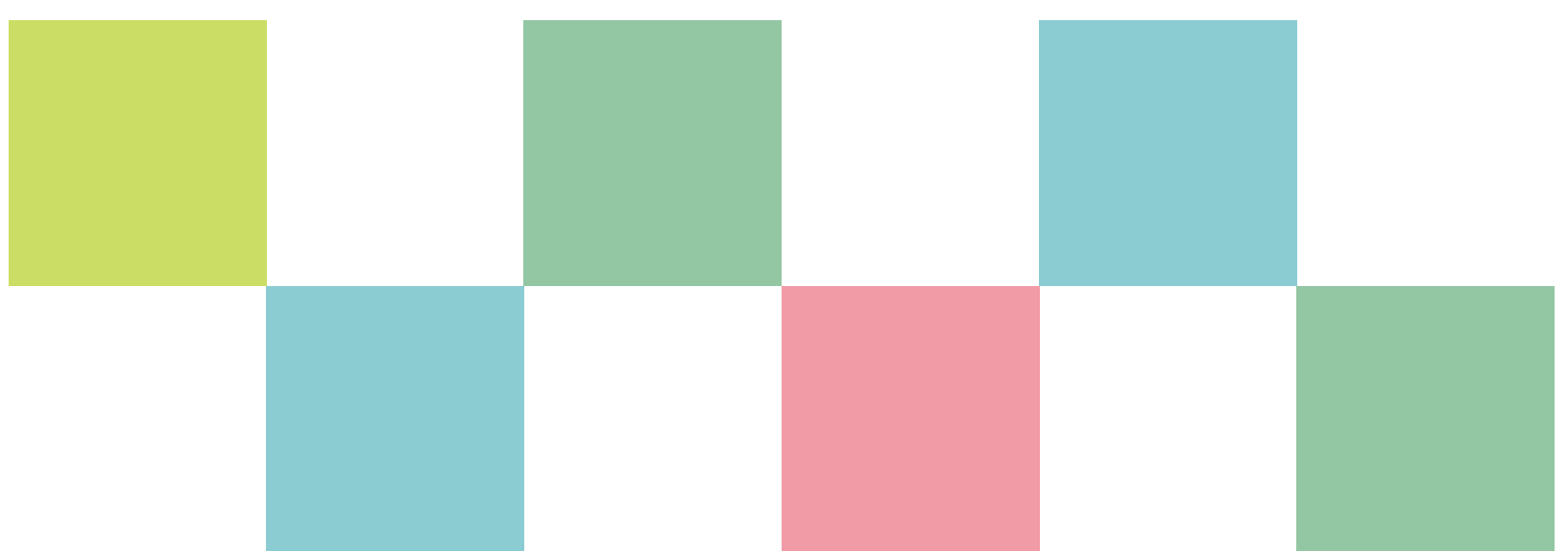


発行:南アルプス市農業協同組合

住所:山梨県南アルプス市小笠原455

電話:055-283-7111(代表) FAX:055-283-7125

<https://www.ja-minami-alps-city.or.jp/>



経済部 自己改革工程表

○ ビジョン・めざす姿：『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』														
○ 重要成功要因：『生産資材価格の引き下げと低コスト生産技術の確立・普及』														
○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○ 生産資材価格引き下げ対策の拡大														
○ 農薬価格の引き下げ														
	生産資材課													
	生産資材課	年2回	年2回				年2回				年2回			
	生産資材課	最終年度に2%	1%				1.5%				2%			
検証			【未達】全品目 0.5%還元				農薬主要20品目 1%値下げ 肥料農薬 0.5%還元達成1.5%				肥料農薬0.5%還元 達成2%			
○ 出荷容器価格の引き下げ														
	生産資材課													
	生産資材課	29年度実施	販売部と協議し策定				実行				実行			
検証			【継続】 季の二段詰め500gパックの普及に当たり 試行し落合・源・飯野・在家塚で出荷を行った				継続 葡萄個選DBの統一				継続 葡萄個選DB統一			
○ 低農薬・栽培の確立														
○ エコファーマーの拡大														
	生産資材課													
	生産資材課	30年度に70t	45t				55t				70t			
検証			【継続】 「南フスパワー」は20tの供給実績 有機成分90%で価格を抑えた「南フスパワー1号」に移行予定				未達 20t				未達 原料高騰原料不足 販売停止			
	生産資材課	30年度に60,000本	53,000本				57,500本				60,000本			
検証			【達成】 交信攪乱剤53,300本				未達 53,700本				未達 46,120本 指導と協議			
○ 低コスト資材の普及														
○ 低コスト肥料の普及														
	生産資材課													
	生産資材課	30年度3,000袋	2,700袋				2,800袋				3,000袋			
検証			【継続】 リン酸とカリを抑えたエコ化成7号を供給した2,432袋実績				達成 3,947袋				達成 3,383袋			
○ 低コスト原紙の普及														
	生産資材課													
	生産資材課	30年度50%	40%				45%				50%			
検証			【継続】 38% 果実専門部会で提案中				未達成 40%				達成 50%			

第2号議案

第25期事業年度（2019年度）事業計画並びに収支予定計画の設定の件

I. JAをめぐる情勢

世界経済は、中国と米国の貿易摩擦により不透明感が拭いきれない状況であり、今後の動向で日本経済にも大きな影響が懸念されます。

そのような中、2019年度の日本経済も、輸出低迷や設備投資も製造業中心に調整圧力による伸び鈍化を受け、力強さに欠ける展開が続き、個人消費は堅調な雇用環境を受け底堅く推移するとの見方となっております。

一方、農業分野では、昨年12月30日の米国抜きでTPP（環太平洋パートナーシップ協定）の発効や本年2月1日の日本・EU（欧州連合）のEPA（経済連携協定）の発効により、農産物の関税が一部撤廃や段階的引き下げにより、安価な輸入農産物が市場に出回り、農業・JAにとっては一段と厳しい状況になりました。

JA全中では、第28回JA全国大会の中で、主な農業・JAを取り巻く環境は、

1. 農業者の高齢化・世代交代による農業生産構造の変化・農業就業人口の減少
2. 消費者・実需者ニーズの多様化・・・中食・外食・個食
3. 組合員の世代交代・多様化・・・高齢者（70歳以上）の組合員の増加、次世代組合員の農業への意識変化など
4. JAの経営・組織基盤の弱体化・・・農産物販売高の減少、低金利による収益減少、JA施設の老朽化など

としており、全国のJAが自己改革を実践中ではありますが、今後の農業、JA、農村を取り巻く環境は、大変厳しい状況であると思われます。

II. 基本方針

このような中、当JAでは、「JAはなくてはならない必要な組織」との評価を得るため、「農業所得の増大」を重要な課題として、第8次3カ年計画の最終年度である今年度も引き続き、下記のスローガンのもと、特に営農・販売・経済事業の強化に取り組みます。

スローガンとして

目指す ⇒ UP・満足度 スピーディーに実施

公開(情報) ⇒ 責任(説明) ⇒ 参加(組合員) ⇒ 絆(農家とJA)

2019年度は、農産物の販売方法の多様化、生産資材の供給高の減少、利ざやの更なる縮小など各部門の事業運営は一段と厳しさを増してくる中、JA南アルプス市は、役職員一丸となって事業計画を達成できるよう邁進いたします。

更に今年度からの会計監査人監査に対応するためコンパスJAを中心とした内部統制の徹底を図り、各部署において、事務処理の検証強化に努めます。

Ⅲ. 事業方針及び事業実施計画

(1) 営農生活指導事業

1. 事業方針

■スローガン：『足を運ぶ 営農指導』

「農業所得の増大」「担い手の技術力向上」に應えるため、きめ細かくスピーディーな現場指導とタイムリーな情報提供に取り組みます。また、食農を基軸とした地域社会貢献活動を展開します。

2. 具体的な取り組み

(1) 産地活性化対策

- ①優良なオリジナル品種の増殖・増産に取り組みます。
(オウトウ⇒甲斐ルビー・アルプス紅扇、モモ⇒夢みずき、スモモ⇒皇寿、カキ⇒大和百目)
- ②南アルプス発掘の有望品種の特性の確認と増殖の検討に取り組みます。
(モモ：晩暁星、ブドウ：早生赤系種無し大粒種)
- ③果樹経営モデルの推進に取り組みます。
- ④新規就農者を対象にした果樹の技術習得を中心に講座・講習に取り組みます。
- ⑤奨励品種の生産安定と高品質生産の実現に取り組みます。
- ⑥施設野菜の耐病性向上と優良品種の導入に取り組みます。
- ⑦水稻優良品種（つや姫）の普及推進に取り組みます。
- ⑧「富士通」と共同開発した農作物盗難防止システムの推進に取り組みます。
- ⑨農産物の規格の統一に向けた取り組みを行います。
- ⑩JA出資型農業生産法人の具体的な取り組みを行いません。
- ⑪営農サポートセンターの充実に取り組みます。
- ⑫農作業事故の防止対策に取り組みます。

(2) 営農指導体制の充実と強化

- ①営農指導員の増員のため農業関連機関・団体との連携を図ります。
- ②営農指導員の資質向上と技術習得のため先進地研修やOJT活動を実施します。
- ③現場の機動力を活かしたブロック制による営農指導体制を継続します。
- ④支所配置指導員の地域課題の設定と自己啓発の推進に取り組みます。

(3) 農地集積円滑化事業の推進

- ①農地中間管理機構と連携した優良農地の確保と生産拡大に取り組みます。

(4) 地域ブランド化

- ①地理的表示保護制度および「やまなしGAP認証制度」に取り組みます。

(5) 生活指導活動の充実

- ①農協事業参画のための勉強会を開催します。
- ②女性部員並びに女性大学生の組合員加入に取り組みます。
- ③食生活の提案として地元食材料理コンテストを開催します。
- ④健康管理としてJA山梨厚生連と年間を通した活動に取り組みます。
- ⑤次世代を担う小学生への食育に取り組みます。
- ⑥女性部を中心とした6次化に取り組みます。
- ⑦結婚相談員による婚活の充実に取り組みます。
- ⑧重要な担い手育成として「果樹女性講座」を開催します。

3. 収支計画

(単位:千円)

科 目		2018年度実績	2019年度計画
収入	補 助 金	32,690	34,700
	実 費 収 入	7,127	6,200
	合 計	39,817	40,900
支出	営 農 改 善 費	45,355	40,280
	果 樹 振 興 事 業 費	3,153	3,000
	組 織 活 動 費	18,803	20,702
	農 政 情 報 費	1,111	1,110
	生 活 文 化 費	5,002	5,760
	合 計	73,425	70,852
収 支 差 額		△ 33,607	△ 29,952

(2) 販売事業

1. 事業方針

■スローガン：『農家所得増大をふまえた販売戦略の構築』

安心・安全・新鮮で美味しい農産物の安定的な生産出荷を確保し、消費者志向を捉え、南アルプスの特性と独自性を活かした付加価値販売の強化に取り組みます。

2. 具体的な取り組み

(1) 販売力の強化で所得増大を図る取り組み

- ① 市と連携したトップセールスや販売店舗での試食販売会を行い「南アルプス」ブランドの普及と強化を図ります。
- ② 販売の多様化（ネット販売、ゆうパック販売、カタログ販売、旬鮮倶楽部、輸出販売、直売所販売、ふるさと納税返礼品販売、外食市場）を進めます。
- ③ パッケージセンターを活用し、消費者ニーズや要望を汲み取った規格商品の取り組みを進めます。
- ④ 計画販売や市場の重点化に取り組み、経費を考慮した有利販売を進めます。
- ⑤ 糖度センサーや氷感庫を活用した販売を進めます。
- ⑥ 営農指導部と連携し、今後を見据えて農業生産量拡大と品質向上、販売強化に取り組みます。

(2) スモモ、ブドウの統一共選への取り組み

生産部会を通じスモモ・ブドウの統一出荷要領の策定に取り組みます。

(3) モモ光センサー4共選所の運用について

生産部会を通じモモ出荷量に応じたモモ粒選所機能集約運用について引き続き取り組んでまいります。

(4) 野菜選果機検討について

生産部会を通じ野菜選果機導入について検討してまいります。

(5) 米の需給調整と出荷対策

地域水田農業再生協議会と連携していきます。

(6) 宅配事業

宅配業者と連携していきます。

(7) 藤田共選所について

リニア中央新幹線路線計画に関わる藤田共選所移転について生産部会と検討してまいります。

(8) 内部管理統制

本年度より実施する会計監査人監査に対応できるよう内部統制を構築いたします。

(9) 道の駅しらね農産物直売所の体制整備

- ① 魅力ある店作りに取り組みます。
 - ・ イベント開催による集客を行います。
 - ・ 安心、安全対策を行います。
 - ・ 鮮度の良い商品を提供します。
 - ・ 年間多品目栽培による販売を進めます。
- ② 他JA直売所間の連携に取り組みます。
- ③ JAカードの普及に取り組みます。
- ④ 直売所の施設整備を進め、利便性向上を図ります。

3. 販売計画

(単位：千円)

種 類	2018年度実績	2019年度計画	前年対比
	販売高 (A)	販売高 (B)	(B) / (A)
果 実	4,647,486	4,714,000	101.4 %
野 菜	351,502	380,000	108.1 %
畜 産 物	55,902	50,000	89.4 %
米・穀物	53,742	55,000	102.3 %
花卉・他	597	1,000	167.5 %
合 計	5,109,231	5,200,000	101.7 %

※ 正組合員1人当たり販売高	841 千円	(2018年度実績	826 千円)
担当職員1人当たり販売高	175,675 千円	(2018年度実績	172,609 千円)
担当職員1人当たり事業総利益	5,533 千円	(2018年度実績	5,340 千円)

(3) 経済事業

1. 事業方針

■スローガン：『事業コストの削減と内部統制の充実』

■Aコープスローガン：『「新鮮・安全・安心・健康」を基本に、より良い商品の提供と提案、
またサービス力の向上に努めます』

アグリガーデンを中心とした事業展開を行うことで、事業コストの削減を目指します。また、会計監査人監査に対応できるよう、内部統制の充実と実行を適確に行い健全化に努めます。

Aコープでは、組合員利用者のニーズに応えるべく、きめ細やかなサービス展開に努め、安心・安全で鮮度の良い美味しい商品の販売をいたします。

2. 具体的な取り組み方法

(1) 生産資材

農薬・肥料の利用に応じた利用高還元（0.5%）を行います。

肥 料

① 施肥コスト・省力型肥料として野菜ペレット肥料の15kg化を行います。

農 薬

- ① 予約注文の徹底を行い、価格の見える化を進め低価格化に取り組みます。
- ② 営農指導課との連携により農薬・肥料の知識向上に努めます。

園芸資材

① 段ボール原紙規格（AKライナー）の変更を引き続き行い、コスト削減に取り組みます。

※AKライナーとは原紙成分を少なくすることにより安価に製造できる素材です。さらに強化剤を増やすことにより段ボールが強化されております。

(2) 生活資材

- ① おまかせ灯油配達を中心に燃料供給高の増加を目指します。
- ② LPガス事業の安定供給と安心・安全を組合員に分かりやすく周知をしていきます。
- ③ 組合員に、より安全・安心な商品提供を行います。

(3) 農機センター

- ① 展示会・整備会の内容の充実を図り、特にミニ展示会を多く開催します。
- ② ホームページによる中古農機の発掘や販売に努めます。
- ③ 農機修理時の代替え農機の充実に努めます。
- ④ 農機レンタルの充実を図ります。

(4) 自動車センター

- ① 車検・法定点検の価格表をさらに見やすく作成し、さらなる価格の見える化を図ります。
- ② 利用者の立場にたち親切丁寧をモットーに、自動車販売や車検修理については安心・安全も提供いたします。
- ③ 農機センターとの施設統合を検討します。

(5) 拠点型経済店舗

- ① アグリガーデン南部店・アグリガーデン北部店を中心に資材店舗としての商品充実を図ります。
- ② イベント等を行い供給量の増加と魅力ある店舗づくりを目指します。
- ③ モニター委員会を中心に商品の充実や店舗運営についての指導をいただきながら、より良い店舗づくりに努力します。また、先進地視察や事例研修等を行い知識の向上に努めます。
- ④ 経済店舗検討委員会を立ち上げ、支所併設型購買の集約や経済店舗の設置、配送センターについて検討します。

(6) 葬祭センター

- ① 葬儀様式の多様化や変化に柔軟に対応し事業を進めます。
- ② すずらん会員の加入を増やしサービスの向上に努めます。
- ③ 心のこもった葬儀の対応を行い利用拡充に努めます。
- ④ 資格取得に努め職員教育に取り組みます。

(7) Aコープ

- ① 甲西店の惣菜をテナントからインストア加工に変更し、魅力ある売場づくりに努めます。
- ② 産直売場を見直し、鮮度感を出した売場づくりで競合店との差別化を図ります。
- ③ 安心・安全な商品の販売、また健康を意識した販売の強化を更に推し進めます。
- ④ サービスレベル向上のため接客力の強化に努めます。

(8) 債権管理・経済改革

- ① アグリガーデンを中心とした事業展開を進めます。
- ② 支所長・窓口との連携の強化を行い未収金回収に努めます。
- ③ 内部統制を確立し、不祥事防止に努めます。
- ④ 今年10月からの消費税率変更に伴い、各部と協議を行いスムーズに移行できるよう努めます。

3. 供給計画

(単位：千円)

種 類	2018年度実績		2019年度計画		前年対比 (B) / (A)
	供給高 (A)		供給高 (B)		
生産資材	肥料	173,473	186,955	107.7 %	
	農薬	261,680	271,720	103.8 %	
	飼料	2,961	4,060	137.1 %	
	農業機械	175,640	177,956	101.3 %	
	自動車(二輪除く)	33,936	59,720	175.9 %	
	燃料	81,920	80,200	97.9 %	
	園芸資材	554,981	560,100	100.9 %	
	一般資材	158,956	147,102	92.5 %	
小計	1,443,549	1,487,813	103.0 %		
生活資材	食品	米	20,342	18,639	91.6 %
		生鮮食品	3,065	3,100	101.1 %
		一般食品	54,019	58,250	107.8 %
	衣料品	11,946	12,065	100.9 %	
	耐久消費財	74,218	72,000	97.0 %	
	日用雑貨	93,248	84,850	90.9 %	
	保健用品	672,141	635,830	94.5 %	
	家庭燃料	24,625	19,712	80.0 %	
	その他	688,788	679,700	98.6 %	
	小計	1,642,395	1,584,146	96.4 %	
一般購買合計	3,085,944	3,071,959	99.5 %		
Aコープ店	3,750,230	3,820,000	101.8 %		
合計	6,836,174	6,891,959	100.8 %		

※ 組合員1人当たり供給高 678 千円 (2018年度実績 673 千円)
 担当職員1人当たり取扱高 47,140 千円 (2018年度実績 46,759 千円)
 担当職員1人当たり事業総利益 3,999 千円 (2018年度実績 4,316 千円)

(4) 共済事業

1. 事業方針

■スローガン：『次世代・次々世代との接点拡充に向けた活動の展開』

J A共済の事業理念である「助け合い」の精神を再確認し、組合員・利用者等へ「安心」と「満足」を提供し「ひと・いえ・くるまの総合保障」の充足実現を目指していくとともに、将来にわたる強固な事業基盤を築いてまいります。

また「第8次3カ年計画」の最終年度にあたる2019年度は携帯端末機（ラプレッツ）の活用による「あんしんチェック」を基軸に、保障性仕組みに積極的に取り組み、面の推進活動を展開します。

2. 重点実施項目

(1) 組合員・利用者への訪問活動による保障点検の実施に取り組む

①3Q訪問活動の原点回帰

3Q訪問活動は、「点」の推進活動の脱却を図り、「面」の推進活動を展開するにあたり重要な活動であることから、「ひと保障」の推進強化に向け、再度3Q訪問活動の基本に立ち返り、組合員・地域住民へ「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供に取り組みます。地域に密着したJ A共済ではありますが、組合員の高齢化等に伴い、次世代・次々世代層との接点拡充は早急な課題となっています。J A共済の認知度およびJ A共済のブランドイメージの向上に取り組みます。

(2) 推進活動の質的向上

- ①L Aの携帯端末機（ラプレッツ）活用によるペーパーレス・キャッシュレス拡大を目指します。
- ②L Aが県本部主催の研修会により知識・推進スキルの向上に取り組めます。
- ③L Aトレーナーによる指導・育成体制を整え推進目標の占有率70%を目指します。
- ④推進サポート制度（情報提供）を導入し、L A・窓口担当者の体制確立を図ります。

(3) 窓口共済担当者の育成強化

窓口担当者の推進面・事務面の対応力強化のため携帯端末機（ラプレッツ）活用によるペーパーレス・キャッシュレス手続きの強化に取り組めます。

(4) 自動車・自賠責共済代理店の強化

自動車・自賠責共済代理店への週一度の巡回を行い、日常点検・定期点検を通じて事務手続きの指導に取り組めます。

(5) 本所業務の強化

- ①ペーパーレス・キャッシュレス導入に伴う引受け処理日数短縮、支払査定の迅速化・適正化に努めます。
- ②支所共済担当者への知識・スキル向上を図ります。
- ③会計監査人監査への対応のため、県本部と協力して支所巡回と研修会を実施いたします。

(6) 自動車損害体制の強化

契約者の立場・気持ちに立った対応を恒常的に取り組み、事故直後の契約者の不安解消と早期解決に努めます。

3. 事業計画

長期共済

(単位：件、千円)

種 類	2018年度実績		2019年度計画								前年対比 (B) / (A)	
	保有 件数	保有高 金額 (A)	増 加 額				満 期 等 減 少 額		期 末 保 有 高			
			件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金額(B)		
生 命 総 合 共 済	終身共済	12,634	134,449,985	800	4,840,897	500	3,861,026	613	9,054,199	12,821	130,236,683	96.9 %
	定期生命共済	79	796,000	33	990,000	30	900,000	6	50,000	106	1,736,000	218.1 %
	養老生命共済	7,146	54,254,121	1,272	6,592,338	400	1,889,070	872	5,557,861	7,546	55,288,598	101.9 %
	うちこども共済	2,319	15,474,100	417	1,194,136	102	268,300	155	1,392,786	2,581	15,275,450	98.7 %
	医療共済	7,369	2,187,150	301	61,000	262	33,000	290	221,473	7,380	2,026,677	92.7 %
	がん共済	1,200	505,000	94	8,460	42	—	52	21,000	1,242	492,460	97.5 %
	定期医療共済	675	3,171,500	0	0	0	—	55	360,900	620	2,810,600	88.6 %
	介護共済	423	853,314	65	223,094	48	171,611	17	18,709	471	1,057,699	124.0 %
	年金共済	4,698	33,000	551	—	236	—	315	—	4,934	33,000	100.0 %
建物更生共済	17,202	220,930,797	3,200	49,617,933	3,000	47,805,565	4,075	59,307,011	16,327	211,241,719	95.6 %	
合 計	51,451	417,480,868	6,733	62,333,722	4,518	54,660,272	6,450	75,983,938	51,734	403,830,652	96.7 %	

短期共済

(単位：件、千円)

種 類	2018年度実績			2019年度計画			前年対比 (B) / (A)
	件 数	金 額	掛金(A)	件 数	金 額	掛金(B)	
火 災 共 済	1,695	18,512,600	17,807	1,700	18,565,700	17,850	100.2 %
自 動 車 共 済	17,549		725,141	17,550		725,166	100.0 %
傷 害 共 済	28,831	97,792,470	86,626	28,850	97,830,350	86,694	100.1 %
団体定期生命共済	—	—	—	—	—	—	— %
定額定期生命共済	—	—	—	—	—	—	— %
賠償責任共済	793		1,929	800		1,946	100.9 %
自 賠 責 共 済	7,600		183,456	7,600		183,456	100.0 %
合 計	56,468		1,014,961	56,500		1,015,112	100.0 %

(注) 金額は保障金額である。

※ 組合員1戸当たり長期共済新契約高 (年金共済除く)	5,743 千円	(2018年度実績)	5,960 千円
〃 長期共済保有高 (年金共済除く)	4,243 千円	(2018年度実績)	43,866 千円
担当職員1人当たり長期共済新契約高 (年金共済除く)	893,141 千円	(2018年度実績)	926,893 千円
〃 長期共済保有高 (年金共済除く)	6,598,540 千円	(2018年度実績)	6,821,582 千円
〃 事業総利益	12,696 千円	(2018年度実績)	13,243 千円

(5) 信用事業

1. 事業方針

■スローガン：『必要とされるJA金融店舗“再構築”』

第8次3カ年計画の最終年度であり、JAバンク山梨中期戦略（2019～2021）の初年度にあたり、「農業・地域の成長支援」、「貸出の強化」、「組合員・利用者の満足度向上」に向けて、持続可能な収益構造を構築することで、農業・地域から必要とされる存在、今後も総合事業経営を前提とした、JA金融店舗づくりに取り組みます。

総合JAで有り続けるための態勢を整えます。

2. 重点実施項目

(1) 農業・地域の成長支援

農業所得向上、地域活性化、総合事業としての収益力向上を実現していきます。

<具体的取組策>

- ① 営農指導、販売、経済部門や信連、連合会等と連携して、農業者の経営課題把握や、問題解決に
取り組み、助言サポート等を実施
- ② 行政や地域企業等と連携し、地域活性化への貢献
- ③ 食農教育助成事業の取り組みを継続実施

(2) 貸出の強化

農業・地域の資金ニーズへの対応を強化し、農業融資シェア改善を図ります。

<具体的取組策>

- ① 「貸出強化プラン」の実践を通じた資金ニーズへの対応強化
- ② ローンセンター機能の更なる充実による内部管理態勢の整備強化と債権管理の徹底
- ③ 農業金融情報の提供、資金調達方法の提案
- ④ JAバンク利子補給制度、JAバンク山梨利子補給及び保証料助成の利用促進
- ⑤ 融資担当者、渉外担当者による出向く体制構築
- ⑥ 三大疾病保障付住宅ローンを核とした住宅ローン推進強化
- ⑦ 住宅関連会社や共済代理店等と連携
- ⑧ 運用力強化を担う人材育成

(3) ライフプランサポートの実践

顧客メイン化に向けた取り組みにより、組合員・利用者の人生設計や資産形成・運用に最適な金融サービスを提案していきます。

<具体的取組策>

- ① JA南アルプス市独自商品の開発、キャンペーンによる取り組み
- ② 給振・JAカード等の日常的な金融取引のセット推進の実施
- ③ 経済部、販売部と連携し、Aコープや経済店舗、直売所割引やJA-SS等でのJAカード利用者の獲得

④ 年金友の会の更なる充実と特典増加

年金友の会各種行事の参加者にAコープポイント付与、旅行・保養、ゲートボール大会等の開催、各種勉強会や旅行サークルの実施、年金特別金利上乘せ定期等の継続展開

⑤ 現役・次世代との関係構築に向けた相続対策等の個別相談やセミナー開催、「出前相続相談」の継続実施

⑥ 税務相談会、休日ローン相談会・年金相談会の継続開催

⑦ 個人インターネットバンクの利用拡大を図り、WEBやDM等を活用した利用者増加への取り組み

⑧ 利用者に対する適切な対応（苦情相談・金融円滑化・金融機能不正利用防止等）の実施

⑨ ライフプランサポートを担う人材育成（渉外担当者・窓口担当者）

（4）内部管理態勢構築・健全性確保

金融機関標準の内部管理態勢を強化・構築し、JAバンク基本方針等の枠組みに沿った健全性を確保していきます。

2019年度末に行われる会計監査人監査での確実な監査証明を得られる内部統制レベルを確保するため、内部統制構築を行います。

また、事務管理態勢の強化により、統一事務の徹底、事務処理の向上を図ります。

＜具体的取組策＞

① 金融機関標準の高度な内部管理態勢の確保、および悪化していく信用事業収支に対処するために、JA南アルプス市の適正金融店舗数での展開検討

② 信用事業内部統制支援ツールを使用した業務プロセスの確立、「事務指導計画」に基づき、新たな視点を加えた事務指導の実施

③ 総合リスク管理体制の整備

④ 貯金保険制度に基づくデータ整備

⑤ 自店検査による事務管理態勢充実・強化にかかる運動の継続

⑥ 各種通信教育や研修会等による職務別人材育成

4. 事業計画

目標とする資金量（期末残高）

① 貯金 87,000百万円 前年比増加率 3.0%（見通し対比）

② 貸出金 13,200百万円 前年比増加率 0.0%（見通し対比）

（単位：千円）

種 類	2018年度実績		2019年度計画		前年対比 (B)／(A)	
	期末残高 (A)	期末残高 (B)	平均残高			
貯金	当座性	37,212,801	39,481,904	38,985,520	106.1 %	
	定期性	47,050,470	47,539,563	46,941,874	101.0 %	
	譲渡性	0	0	0	— %	
	計	84,263,272	87,021,467	85,927,394	103.3 %	
	組合員1人当たり貯金高	8,298	8,570	8,462	103.3 %	
	担当職員1人当たり取扱高	1,534,850	1,585,090	1,565,161	103.3 %	
借入金	手形	—	0	0	— %	
	証書	—	0	0	— %	
	当座貸越	—	0	0	— %	
	農漁資金	—	0	0	— %	
	計	—	0	0	— %	
預金	系統	当座性	475,698	522,476	514,316	109.8 %
		定期性	61,557,000	64,323,547	63,319,020	104.5 %
		小計	62,032,698	64,846,023	63,833,337	104.5 %
	系統外	74,183	79,571	78,347	107.3 %	
	計	62,106,881	64,925,594	6,911,684	104.5 %	
	譲渡性		0	0	— %	
金銭信託・有価証券	7,388,660	8,288,698	7,934,829	112.2 %		
買入金銭債権	0	0	0	— %		
貸出金	手形	0	0	0	— %	
	証書	13,997,922	12,945,607	13,181,551	92.5 %	
	（内転貸）	0	0	0	— %	
	当座・営農貸越	272,720	261,567	268,467	95.9 %	
	割引手形	0	0	0	— %	
	計	14,270,642	13,207,174	13,450,018	92.5 %	
	組合員1人当たり貸出金	1,405	1,300	1,324	92.5 %	
	担当職員1人当たり取扱高	1,518,153	1,405,018	1,430,852	92.5 %	
担当職員1人当たり事業総利益	7,477	6,471		86.5 %		

(6) 総務部・企画管理部

1. 基本方針

- スローガン：『組合員本位の業務運営の徹底・持続的な農業農村社会の実現・事業経営における健全性の確保』

第8次3ヵ年計画の最終年度として、総合事業維持に向け確実に事業を行う。

2. 具体的な取り組み

(1) 組織・財政について

- ① 農協改革が求める態勢構築のため、全戸組合員アンケートを実施し、自己改革の進捗状況を検証いたします。また、昨年度行ったJA独自の全戸組合員アンケートの結果を事業運営に反映させます。
- ② 総合事業経営の持続のための、金融機関標準の高度な内部管理態勢の確保を行うために金融店舗の再編を計画いたします。併せて耐震基準を満たしていない建物についても今後の対応を検討いたします。
- ③ JA施設のバリアフリー化を進めてまいります。
- ④ 「JA南アルプス市」ブランド力を販売戦略として、農産物の高価格販売に取り組み、組合員の農業所得増大を図ります。
- ⑤ 本年2月稼働の県下統一電算システム（コンパスJA）により、会計管理システム関係の内部統制を強化します。
- ⑥ 本年10月からの会計監査人監査に対応するため、内部統制の強化を図ります。
- ⑦ 危機管理体制として、本年度は発電機・テント・照明等を各支所に設置します。
- ⑧ 農業生産法人を設立し、南アルプス市の農業振興を図ります。
- ⑨ 藤田共選所に係る「リニア対策検討委員会」において、具体的に対応を検討いたします。

(2) 人づくりと組織の活性化について

- ① 人材育成基本方針に基づき、全職員がモチベーションを高く維持し仕事に取り組みます。
- ② 働き方改革の職場展開を行うため、新しく設立した職員組合とも協議し、部署毎に働き方を見直す取り組みを行います。
- ③ 資格認証試験や専門資格取得の勉強会を通じ合格率の向上を図ります。
- ④ 女性活躍推進として、女性管理者の比率を向上します。

(3) アクティブメンバーシップへの取り組み強化

～組合員が積極的に事業や協同活動に参加するために～

- ① Aコープ会員、青年部、女性部などの組織と一体となり複数组合員制を進めます。
- ② 准組合員の意思反映および運営参画を行うため、准組合員は地域経済の発展と農業者と共に支える運動者として運営参画を呼び掛けます。
- ③ 地域密着型の、事業・協同活動の発信内容を検討し、HP及び広報誌の充実を図ります。

- ④ 放送施設老朽化に対応するため、更なるメール登録者の増加を図ります。
- ⑤ 支所運営委員会等の徹底した意見集約や、職員が収集した組合員ニーズを取り入れ、事業に反映させます。
- ⑥ 地域貢献としてボランティア活動などの「1支所1活動」を継続実施します。

(4) コンプライアンス体制について

- ① 「コンプライアンス・プログラム」及び「不祥事未然防止のための行動計画」に基づく、進捗管理を徹底します。
- ② 総合的なリスク管理体制の厳格化と、各部門作成の「不祥事未然防止対策」を徹底します。
- ③ 特定個人情報（マイナンバー）の管理体制を強化します。

(5) 宅建事業

遊休資産の活用と処分を計画的に行います。（継続）

《 監査室 》

1. 基本方針

信用ある協同組合、信頼される協同組合の維持発展に役立つこと及び不正・不祥事防止を目的として監査を行い、内部統制の指導・運用状況ならびに、管理態勢等の適切性・有効性を検証します。

2. 具体的な取組み

- ① 内部統制の有効性について監査を行います。
- ② 不正・不祥事防止のため内部管理体制に懸念のある部門・事業所は重点的に行うなど実効性のある監査を行います。
- ③ 基本的事項の徹底など適切な事務手続きのためのリスク管理体制の検証を行います。
- ④ リスクアプローチ監査を行い効率的かつ効果的に監査を行います。
- ⑤ 会計監査人、監事監査と連携し、組織的かつ効率的監査を行います。
- ⑥ 常勤役員及び職員等からの情報に柔軟な対応をし、機動性のある監査を行います。

第1号議案

第24期事業年度（平成30年度）事業報告、剰余金処分案承認の件 （平成30年2月1日～平成31年1月31日）

事業報告

I. 概況

1. 主要な事業活動の内容

はじめに

平成30年度は、4月1日より「南アルプス市ブランド」の強化を目的とした「JA南アルプス市」へ名称変更を実施し、更に品揃えの充実と利便性向上を目的とした「アグリガーデン南部店」を開店しました。また、3ヵ年計画の2年目であることや自己改革の最終年度にあたり、全役職員が危機意識を持って、積極的に事業推進を行いました。

特に「JAはなくてはならない必要な組織」との評価を得るため、「農業所得の増大」を重要な課題として、下記のスローガンのもと、営農・販売・経済事業の強化に取り組みました。

目指す⇒UP・満足度 スピーディーに実施

公開（情報）⇒責任（説明）⇒参加（組合員）⇒絆（農家とJA）

平成30年に実施した全組合員を対象としたアンケート調査では、組合員の皆様のご理解ご協力をいただき、「JAは必要」「JAは地域の暮らしに役立っている」との回答が92%を上回りました。また、その結果を9月の地区別組合員対話集会において報告いたしました。

さて、各事業の概要を以下の通り、ご報告申し上げます。

営農指導事業では、優良オリジナル品種の増殖・増産を継続実施し、あんぼ柿乾燥施設の追加導入やモバイル糖度計によるシャインマスカットの品質保証に取り組みました。

また、盗難・防犯システムを事業化、リースで機器を設置し、防犯効果を発揮することができました。

作柄は、果実では春季の高温により生育が進み、夏季の高温乾燥や秋季の台風による暴風雨により小玉傾向となり、晩腐病なども発生しましたが、概ね安定した出荷となりました。

野菜では、天候が不安定であったものの春キュウリ、トマトの生育は順調に進みました。秋キュウリは、9月の日照不足で収量が減少しました。

生活指導事業で「食・農・暮らし」を基軸とした活動により、健康と仲間作りのほか、農作物を通じて次世代を担う子供たちに対し、食農教育活動に取り組みました。

販売事業では、果実については小雨の影響で小玉であったものの、ロス果も少なく、シャインマスカットの出荷量増加、あんぼ柿の安定出荷、更に秋キュウリの単価高などにより平成25年度以来5年ぶりに販売高が50億円を超えることができました。

また、本所にパッケージセンターを設置し、消費者ニーズに対応した贈答用の商品販売を実施いたしました。

直売所では、各種イベントの開催により集客し、またクレジットカードを利用できるようにして、購

入者の利便性を向上させました。

なお、ＪＲ東海のリニア用地にかかる藤田共選所リニア対策協議会を発足させ、対応を協議しております。

経済事業では、拠点型店舗の事業展開として、アグリガーデン南部店を４月に開店し、イベントなど積極的に販売促進を行い、北部店と合わせ供給高を伸ばすことができました。また、今年度も引き続き、たい肥や農薬の購入代金に対し、０．５％の還元をいたしました。

農機センター北部、南部に貸出用のチップパー（剪定枝粉碎機）を導入し、利用者の費用軽減、作業効率の向上を図りました。

自動車センターでは、軽自動車の販売が多くなり、供給高が伸びました。

葬祭センターでは、葬儀相談会を実施しました。

Aコープでは、リニューアルしたJA南アルプス市のホームページの中で、情報発信力を強化しました。また魅力ある売り場作りや商品力の向上、安全・安心な商品の提供も行き、競合店出店の影響もあり供給高は減少しましたが、手数料は前年を上回ることができました。

信用事業では、名称変更を記念した定期貯金、割引券付き定期貯金などを積極的に推進し、貯金残高は842億円となりました。貸付金については、ローンセンターを設置したものの大口返済や通常償還により142億円となり、期首より減少しました。

なお、相談業務については、年金・ローン・相続を中心に多くの相談を受け付けました。

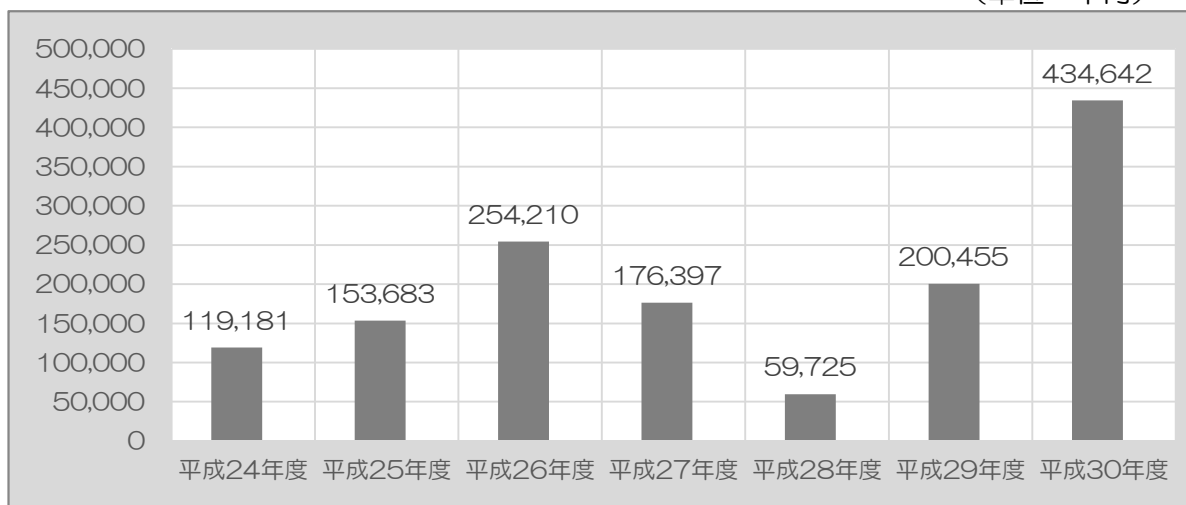
共済事業では、3Q訪問活動や推進活動の質的向上を図るため、渉外担当者の携帯端末（タブレット）活用によるペーパーレス契約を進め、更に渉外担当者のスキルアップ研修会等に積極的に参加したことにより、11月には全支所新契約目標を達成いたしました。

JA南アルプス市では、食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合として、農業者の所得増大、地域の活性化を実現するため、組合員アンケート調査結果を謙虚に捉え、様々な自己改革に挑戦しております。

今年度も農業のさらなる成長を盛り上げていくため、一層スピードアップをして改革を進めます。

◎当期剰余金推移

（単位：千円）



※退職給付会計の会計方針を変更し、計算方法を原則法から簡便法に変更したため、退職給付引当金の取し額を276,299千円特別利益に計上したことから当期剰余金が大幅に増えております。

(1) 営農生活指導事業

1. 営農指導活動

日々変わる気象条件、突発的に発生するゲリラ豪雨や強風など予想も困難な中で、組合員の皆様には生産者としての苦勞を推察いたします。休眠期より春先の開花期は平均気温が高く推移し全体的には前年に比べ5日の進みとなり、さらに5月から6月でも平均気温は高く推移し6月下旬には34℃以上を記録するなど生育が前倒しとなり7日前後の進みとなりました。7月から8月も定期的な降雨と40℃を記録する高温乾燥が続きました。その後度重なる台風の接近・上陸によりブドウでは病気の感染が見られました。果樹の主要品目の作柄は、オウトウで8分作、スモモで豊作、モモ・ブドウ・キウイで平年作、カキの干柿では豊作と加工期間の天候が安定したため品質も良好となりました。

オウトウ・スモモについては、5月19・20日の強風でスレ果の発生が確認されました。モモを含めた立木では高温乾燥の影響から生育が前倒しとなり小玉傾向となりました。立木全般に平均糖度は高く、食味も良好でした。ブドウについては、6月25日の降雨後の高温で果粒肥大期の果房に日焼けが発生しました。また、高温乾燥により果粒肥大が進まず小粒傾向で収穫期を迎え、収穫期後半には台風の影響により晩腐病の感染が拡大しました。カキについても、9月の台風の影響で秋雨前線が活発となり、まとまった降雨により果実肥大が進み収穫量は増加しました。干柿の加工についても豊作傾向に併せて、加工期間の天候が安定したため品質も良質な干柿が生産されました。

蔬菜の春キュウリでは、定植時期の低温により厳しい環境でのスタートとなりました。3月は平均気温が高く推移したため、生育が前進しました。出荷目合わせは3月27日に行いました。

春トマトも同様に、定植時期の低温により厳しい環境でのスタートとなりました。3月から平均気温が高く推移し生育が前進しました。出荷目合わせは、昨年より3日早い4月17日となりました。

秋キュウリは、生育期の高温により果実品質に影響がありました。9月の日照不足により収穫量は減少しました。11月は、平均気温が高く推移したため、コナジラミ類等の害虫の発生が続きました。

組合員の農業所得増大と技術力向上を目標に取り組み、果樹ではオリジナル品種の増植・供給にオウトウ・モモ・スモモ・ブドウを中心に継続実施しました。また、管内での優良品種や新品種の選抜や登録を進めています。果樹経営支援対策事業（改植事業）の継続ならびにあんぼ柿乾燥施設を追加導入したほか、モバイル糖度計を活用したブドウの糖度保証として、シャインマスカットの全園収穫前糖度検査を実施し品質保証を図りました。また、組合員が求める農作業受委託作業「営農サポートセンター」も申し込みが増加しております。農地についても山梨県農地中間管理機構を中心に行政（県・市）と連携した取り組みにより実績を積んで参りました。近年増加している果実や野菜の盗難防止対策を目的に「富士通」と共同開発した果樹盗難遠隔監視装置（盗難防止センサー）の利用がスタートし、前年度の被害発生園での取り付けでは盗難の発生件数はなく大きな効果が得られました。野菜では、施設キュウリで問題となる病害（褐斑病・うどんこ病）に対しての耐病性品種を導入し生産の安定を図りました。

2. 生活指導活動

「食・農・暮らし」を基軸とした活動により、健康と仲間作りのほか、農作物を通じて次世代を担う子供たちに対し、食農教育活動を行いました。

(1) 女性部活動

「身土不二」に基づく取り組みとして、地元食材料理コンテストや、小学生を対象としたジャガイモ収穫体験など、部員が先生となった農家や地域文化に触れてもらう食育体験を通して、地産地消への意識を高めることができました。

また、女性理事2名も参加した集いを行い、女性部としてJAへの参画についての話し合いを致しました。スコップ三味線の演奏レパートリーが、5曲に増え「ふれあいまつり」等において披露し仲間づくりの一つとして大好評を得ました。

(2) 女性大学活動

年間に9講座開催し、厚生連が開催する市民公開講座のロコモ予防と認知予防の講演や、電話詐欺、交通事故防止などの安全学習を南アルプス警察署の警察官に講師となっていただき行いました。また今年度は、地域の医療機関などと連携した健康教室などの学習や、料理教室では100歳弁当コンテストに出品し、南アルプス市で行っている健康リーグに参加しました。その他、手芸教室や県外一泊学習を行い、交流の場として健康で心豊かとなるよう活動しました。

(3) 家の光活動

「家の光」の記事活用体験を、家の光大会において2名の方がそれぞれが体験した内容をユーモアを交え発表されました。また、全国の小学生を対象に募集した「ちゃぐりん」感想文に、JA南アルプス市管内からも143編の応募があり4名が入賞されました。また、女性部役員による家の光の年間普及活動を行いました。

(4) 結婚相談員会

相談員による定例会の開催のほか、来期6月開催予定の婚活ツアーについて計画を行いました。

(5) 健康管理活動

「健康寿命100歳プロジェクト」に基づき、健康講座や各教室において厚生連職員が講師となりウォーキング、グラウンドゴルフなどを行い、各部員が爽やかな汗を流しました。

(6) 営農活動

女性の技術習得として、県の普及員を講師に招き「果樹女性講座」を年間を通じて開催しました。オウトウ・モモ・スモモ・ブドウコースを10回開催し受講者延べ91名が参加しました。

(2) 販売事業

今年度は、開花期を通して生育が順調で、非常に早い出荷となりました。豊作を予想しスタートしましたが、昨年同様降雨が少なかったため小玉傾向となり、出荷キロ数は昨年を大きく上回ることはありませんでした。ブドウはシャインマスカット人気もあり全般に高単価で推移しました。野菜は春作が前年の野菜高騰の影響を受け単価安に苦しみましたが、秋作が数量・金額共好調に推移しました。

販売高目標の50億を5年振りに達成する事ができました。

1. 果実（主要品目販売状況）

(1) 小梅

開花時期から生育が順調で作柄もよく出荷増となりました。

また、消費者の嗜好の変化から弁当等にそえる小梅からの代替えが多い状況となりました。

(2) サクランボ

結実が園地によるばらつきがあり良好ではない中、5月17日より出荷となりました。本年度は小玉傾向で推移した為、出荷量は減少となりました。生育が昨年度より7日早くなり全体のピークは5月最終週となりました。後半はウルミ果等のクレームも多発しましたが、例年ほど山形産との競合販売にはなりませんので堅調のまま終了となりました。

(3) スモモ

大石早生は6月8日から、サマーエンジェルは7月1日から、貴陽は16日から、太陽は22日から出荷開始となりました。天候にも恵まれ、結実は良好でしたが生育期の降水量が少なく、小玉傾向となり箱数が伸びない状況となりました。また猛暑の影響により日焼け果等も見受けられました。品種が重なった出荷となったことに加えて競合産地の豊作もあり荷動きが悪く厳しい販売となりました。貴陽と皇寿については昨年に引き続き糖度センサーを使い、糖度保証の1玉販売を行いました。

(4) モモ

本年度の桃については開花期を通して生育が順調で非常に早い出荷となり、ちよひめで6月11日から、白鳳は7月10日から粒選開始となりました。玉張りについては昨年と同様に降雨が少ない為、小玉傾向になりましたが、糖度については昨年同様、収穫時期の天候に恵まれた為、高い糖度で推移しました。小玉傾向で推移した為単価が伸び悩みましたが、過熟果や核割れ果等のロス果が少なかった為、数量の増加に繋がりました。

(5) ブドウ

種なし巨峰は7月29日から出荷開始となりました。天候の影響により、小玉傾向、着色不良となり出荷量は減少となりました。しかし、全国的にも出荷量が少なく、旧盆需要もあり引き合いが強く、順調な販売となりました。シャインマスカットは8月下旬よりピークを迎え、本年も前年を上回る出荷量となりましたが、国内外で消費も増え需要が多く、単価でも前年を上回りました。甲斐路も生育期の天候により、着色不良となりました。また9月の台風や曇雨天の影響により腐れ果等も見受けられ、出荷量は前年を下回りましたが、ブドウ全般引き合いが強く堅調に推移しました。

(6) あんぽ柿

本年度は豊作傾向で、台風などの影響もなく合わせて機械乾燥施設生産者が増えたことで、品質は安定しましたが、前半に出荷量が集中したこと、暖冬により消費が伸び悩んだこと等により軟調販売が長期間続きました。

(7) キウイフルーツ

作柄は天候に恵まれ結実良好となりましたが、玉張りについては小玉傾向で推移した為、出荷量は減少しました。一方、輸入キウイフルーツは昨年を上回る入荷量となっており年内は輸入との競合販売となりました。

2. 野菜（主要品目販売状況）

(1) キュウリ

(春作)

3・4月の気温が高く推移したため前進傾向で出荷となり、市場への入荷が多く軟調販売となりました。5月中旬に曇天が続き一時的に堅調な販売となりました。

(秋作)

8月の高温、9月の曇雨天の影響から出荷量が減少しました。台風の影響もあり市場への入荷が少なく高値で推移しました。11月には全国的に好天が続き各産地の出荷が増加したことで軟調販売となりました。

(2) トマト

冬春トマトは年明け以降、販売単価が平年を下回って推移しました。作付面積の減少、高温で推移し前進傾向の出荷となりました。全国的に出荷量が多く、また九州産越冬トマトの出荷が6月末まで続き、市場の入荷量が多く厳しい販売状況となりました。

3. 米

田植期以降は概ね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き平年以上に確保されたものの、9月中旬以降の日照不足の影響により、登熟が抑制されました。この結果作況指数は99となり平年並みとなりました。

4. 道の駅しらね農産物直売所

桃源郷マラソンへの出店、JA南アルプス市さくらんぼフェスを始め各品目毎のイベントを実施しました。また、JAカード利用等のPRを行い集客に努めました。

売り上げは2億7千万円となりました。

◎平成30年度 道の駅しらね農産物直売所 主なイベント実施状況

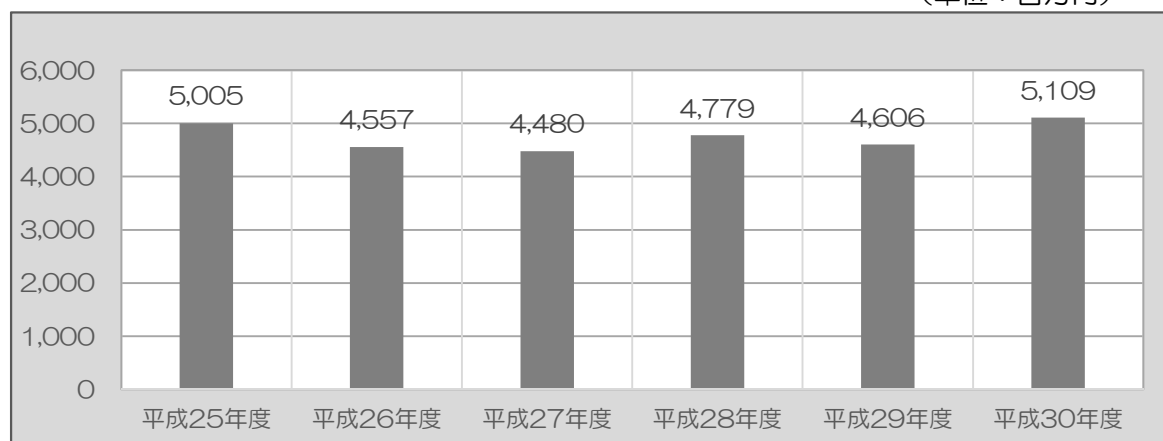
開催日	行事内容
平成30年3月16日～18日	いちご祭り開催
平成30年5月26日～6月3日	さくらんぼウィーク開催
平成30年7月7日～22日	「完熟桃の食べ放題」開催
平成30年7月19日	モモの日イベント開催
平成30年7月24日	スモモの日イベント開催
平成30年8月31日	野菜の日イベント開催
平成30年9月23日	ブドウの日イベント開催
平成30年10月26日	柿の日俳句大会表彰式
平成30年11月17日	秋の旬祭り開催
平成30年12月15日～16日	みかん祭り開催

平成30年度 販売実績表

品 種 名	平成29年度			平成30年度			前年対比 (%)			
	数量 (Kg)	金額 (千円)	単価 (円)	数量 (Kg)	金額 (千円)	単価 (円)	数量	金額	単価	
果 実	小 梅	768	359	467	886	469	529	115	130	113
	中 梅	6,776	3,069	453	12,768	4,326	339	188	140	74
	さくらんぼ	133,001	280,525	2,109	114,754	286,022	2,492	86	101	118
	す も も	1,195,280	733,605	614	1,620,904	919,555	567	135	125	92
	も も	1,710,322	1,047,436	612	1,783,789	1,082,211	607	104	103	99
	ぶ ど う	1,342,810	1,208,065	900	1,217,322	1,302,600	1,070	90	107	118
	生 柿	91,367	19,273	211	117,446	24,366	207	128	126	98
	干 し 柿	179,413	307,024	1,711	279,542	411,815	1,473	155	134	86
	キ ウ イ	156,849	61,517	392	147,303	55,155	374	93	89	95
	そ の 他	15,682	9,483	605	11,919	7,477	627	76	78	103
	個 選	865,028	424,110	490	995,943	463,449	465	115	109	94
	ぶどう醸造	340,291	60,189	177	290,509	55,234	190	85	91	107
	加 工	547,420	28,850	53	538,148	34,807	65	98	120	122
	計	6,585,007	4,183,505	635	7,131,233	4,647,486	652	108	111	102
野 菜	きゅうり	935,682	263,263	281	997,293	301,401	302	106	114	107
	ト マ ト	214,805	50,987	237	163,574	36,689	224	76	71	94
	そ の 他	36,717	10,394	283	44,916	13,412	299	122	129	105
	計	1,187,204	324,644	273	1,205,783	351,502	291	101	108	106
米・穀物		52,524			53,742			102		
畜産物		44,656			55,902			125		
花卉・ほか		1,615			597			36		
合 計		4,606,947			5,109,231			110		

◎販売品販売高推移

(単位：百万円)



(3) 経済事業

経済事業では、拠点店舗2店目となるアグリガーデン南部店を4月にオープンしました。それに伴い、支所併設型購買店舗の廃止や鏡中条SSの地下タンク期限到来による廃止、また、A重油の全農委託を全地区に拡大し、事業コストの削減に努めました。尚、本年度においても昨年同様に購入していただいた肥料・農薬の購入代金に対し、0.5%の還元をいたしました。

生産資材では、天候良好により出荷量が伸び段ボールや副資材の供給高が増え昨年を上回ることが出来ました。また、生活資材では、シロアリ駆除等の供給が大幅に伸び生活資材全体の供給高も昨年以上回る結果となりました。

Aコープでは、競合店が出店する中で、若干の影響がでました。

1. 生産資材

(1) 肥料

施肥コストの抑制、省力化肥料（15kg）に取組み、果樹ペレットを15Kgに変更いたしました。

(2) 農薬

天候に恵まれたため、病害虫の発生が少なく供給高で昨年以下回りました。

(3) 園芸資材

農作物の好調により段ボール・資材の供給高が伸びました。また、あんぼ柿段ボールをAKライナーに変更しました。

※AKライナーとは原紙成分を少なくすることにより安価に製造できる素材です。さらに強化剤を増やすことにより段ボールが強化されております。

2. 生活資材

SS関係の燃料は昨年度より高騰が続き供給高が伸びました。また、シロアリ駆除等の供給高が大幅に伸び生活資材全体では、供給高を伸ばすことが出来ました。

3. 農機センター

乗用モア等大型農機の販売が好調でした。また、農機（ウッドチップパー）を導入し、レンタルを開始しました。

4. 自動車センター

軽自動車や軽トラックの販売が多く、供給高が伸びました。

5. アグリガーデン

アグリガーデン南部店を4月にオープンし、支所併設購買店舗を4店廃止し事業コスト低減に努めました。また、イベント等を多く企画し、南北アグリガーデン一体となって事業を進めました。

その結果、アグリガーデンでは、供給高を大きく伸ばすことが出来ました。

6. 葬祭センター

毎月第2土曜日の葬儀相談会の実施や、食事検討会などお客様本位のサービスに努めましたが、施行件数・供給金額は前年度を下回りました。

7. Aコープ店

白根店では、月2回の新聞折り込みや各種イベントなどを行い販売強化を図りましたが、商圈に数社出店したことや競合各社のチラシ攻勢もあり供給高は前年を下回りました。

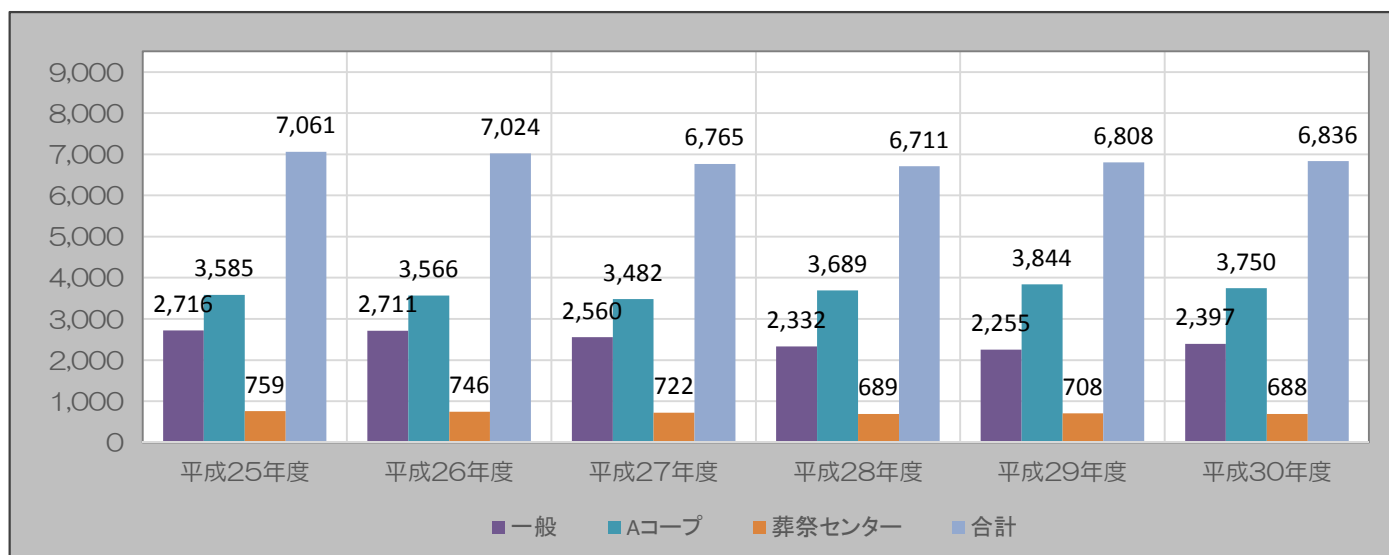
甲西店では地産地消を目的とした地元生産者の出荷物の取り扱いが増えたことや、惣菜コーナーの充実を図ったことにより供給高は前年を上回りました。

8. 購買未収金管理

組合員の皆様のご理解とご協力、また各支所長・購買担当者・金融部門との連携をはかり未収金削減に努めました。その結果、未収金を減らすことが出来ました。

◎購買供給高の実績推移

(単位：百万円)



(4) 共済事業

1. 事業推進活動

LAを中心とした3Q訪問活動、全職員による組合員ふれあい運動と合わせ、組合員利用者のニーズに合った保障内容のサービスの点検、提供を行い「ひと・いえ・くるま」の生活総合保障の実現に取り組んでまいりました。平成26年2月の甚大な雪害等、台風や集中豪雨による被害から「助け合い」の重要性や共済・保険への加入の必要性が意識されるようになり、安心と満足に繋がるサービスの提供を行いました。又、LAにおいては、組合員利用者への高品質なサービスを提供するため、対応力強化を図ることを目的に、携帯端末機（タブレット）の活用による点の推進から面の推進活動に取り組みました。生命・建更・自動車・短期共済の年間新契約目標8,500,000P（ポイントはP表示）のうち3月末目標30%の2,550,000Pに対し、推進実績2,918,032P 達成率114.4%となり、早期に達成し、7月末目標70%の5,950,000Pに対し、推進実績6,485,020P 達成率109.0%年間新規契約目標については、11月29日に達成し、奨励推進目標14,158,000Pについては、実績14,461,269P 達成率102.1%となり、年間新規目標及び奨励目標を達成しました。

2. 自動車共済

自動車共済については、本年度の重点取り組み事項として新規・グレードアップを中心に取り組み、特に車両共済付帯率アップ等行いましたが、掛金率改定に伴い前年対比95.3%となりました。

年間推進目標900,000Pに対し、推進実績995,728P 達成率110.6%となりました。

3. 自賠償共済

本年度も6月5日に代理店「女性のつどい」を開催する中で代理店契約の取組みの要請を行いました。よりJAとの連携を図ることを目的に10月5日に一日県外研修を行い更なるご協力をお願いしました。代理店年間掛金実績149,694千円 前年対比99.1% 年間契約台数6,054件で前年対比99.5%となりました。

4. 傷害共済

傷害共済加入は11月14日に集団契約を行い、1月末の契約件数は28,831件 掛金は86,626千円で前年対比97.7%となりました。

5. 火災共済

火災共済は建物更生共済の補完商品として取り組みました。本年度掛金実績は17,807千円で前年対比95.4%件数は1,695件 前年対比96.8%となり自然災害に対応した建物共済に移行した契約も見受けられました。

6. 共栄火災（代理店）

J Aの共済では補うことのできない分野の保全に努めました。「自治会活動保険」「農業者賠償責任保険」「ゴルファー保険」「イベント保険」「海外旅行保険」等を扱っており、本年もサクラノボ観光農園を中心に農業者賠償責任保険の継続契約をいただきました。

また、自転車事故にかかる賠償事故への保障に対し「J A自転車倶楽部」の推進に取り組み、53件の契約を頂いています。

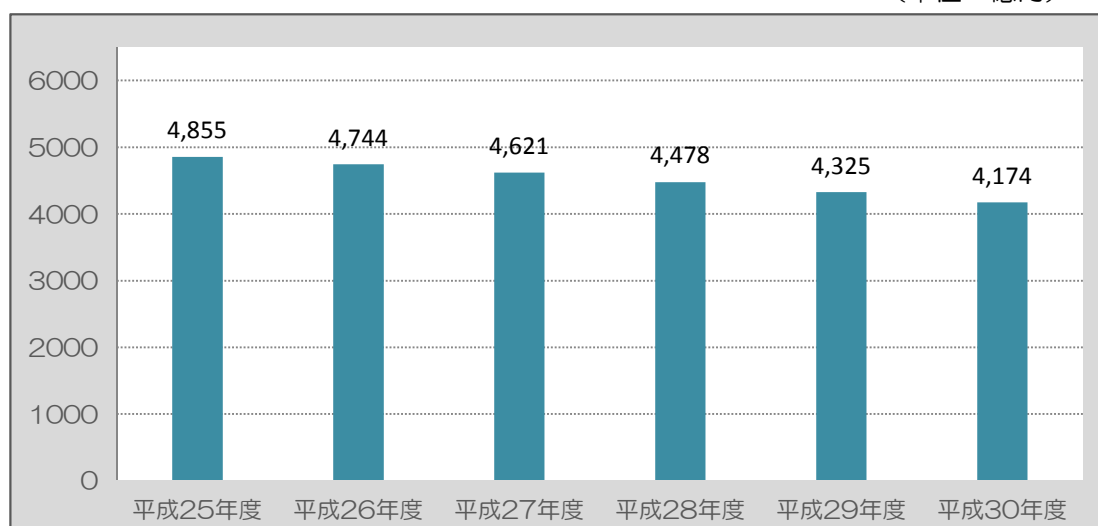
7. 保全、共済金の支払い

農業者の減少や高齢化、これに伴う生命系・建物更生共済の保有件数は毎年減少の一途をたどってきています。この原因として考えられることは、解約、失効、満期非継続や転換契約によるものがその要因として上げられます。

併せてインターネット等の情報と、組合員の高齢化など環境の変化、共済を取り巻くニーズの変化も減少に拍車をかけました。そこで、訪問活動、組合員ふれあい運動と合わせてJ Aとの信頼関係をより向上させると共に、目的でもある、生きていくうえでのリスクの回避とその後の安定した生活の維持に備えるよう1戸1戸の訪問活動で、組合員・利用者の満足と理解・納得の得られる推進保全に努めています。また、平成30年度の共済金の支払いは、生命系共済金9億1千万円、建物共済金2億4百万円、自動車共済・自賠責共済6億2千万円、傷害等短期共済金6千万円、満期等共済金が58億8千万円となり、共済全体では76億9千万円の支払いを行いました。

◎長期共済保有高の推移

（単位：億円）

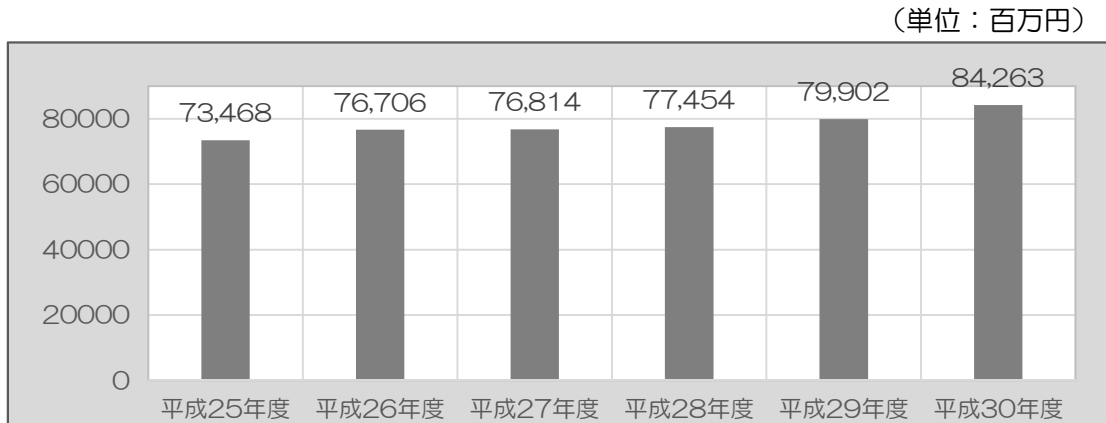


(5) 信用事業

1. 貯金

貯金残高は、各種キャンペーン等の展開により順調に伸長し、期首より43億6千万円増加して842億6千万円、前年対比105.4%となりました。貯金の重要な位置を占める年金は、休日相談会や年金担当者、渉外担当者等での積極的な取り組み、年金友の会関連の様々な特典や事業展開の成果もあり、前年度より9千万円増加し、57億6千万円の振り込みをしていただきました。

◎貯金の実績推移



2. 貸出金

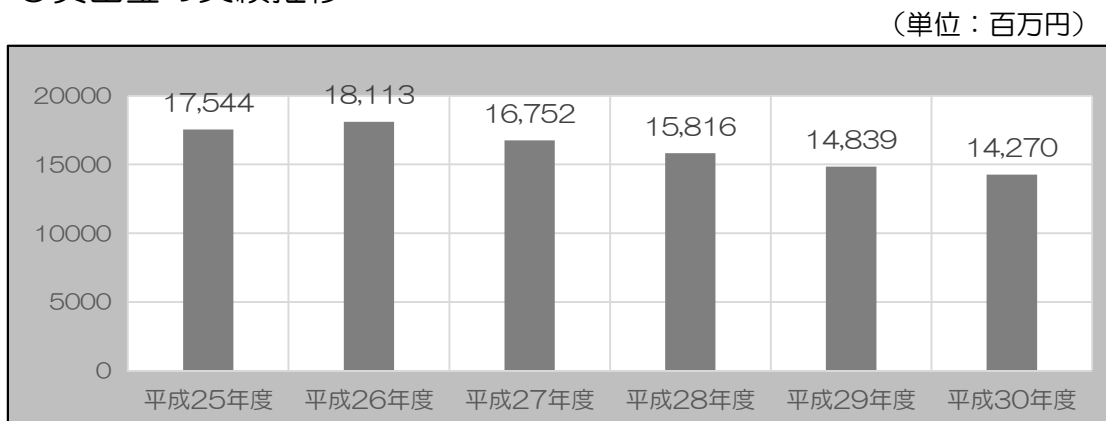
本所にローンセンターを設置し、融資相談室を設けました。

貸出金残高は、南アルプス市貸出金の償還等により、期首より5億6千万円減少し、142億7千万円前年対比 96.1%となりました。休日ローン相談会では、35件の相談がありました。

各種ローン等の内訳は以下のとおりです。

- ・住宅ローン24件 3億1千万円
- ・教育ローン 18件 1千万円
- ・マイカーローン 63件 1億1千万円
- ・農業関連資金 31件 7千万円

◎貸出金の実績推移



3. その他

○業務基盤強化・健全性確保のため、事務管理態勢充実・強化、内部統制に向けた支所巡回等を実施しました。

○農業に対する理解を深めてもらうため、JAバンクアグリサポート事業を利用し、農業に関する教材本「農業とわたしたちの暮らし」を市内の小学5年生に贈呈いたしました。

営農指導部 自己改革工程表

○ ビジョン・めざす姿：『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』														
○ 重要成功要因：『「担い手経営体」「多様な担い手」のニーズに応える個別事業対応の拡大』														
○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○ 営農指導員の育成と担い手に向く体制の整備・充実			営農指導部											
○ 営農指導員の育成と資質の向上			指導課											
・各種研修会の受講			指導課				年3回以上				1回			
検証			【達成】 県外4回、県内10回 合計14回				【達成】 中央会の税務研修、やまなしGAP等の受講に参加				【達成】 県外2回、県内12回 合計14回			
・専門資格の取得			指導課				毎年1名				1名			
検証			【継続】 H29.1.27営農指導員認証試験2名合格				【継続】 毒劇物取扱には8名がH29.10.22日埼玉県に受講するも合格者なし				【継続】 毒劇物取扱には9名がH30.10.21日埼玉県に受講する可否の結果は1名合格			
・増員			指導課				毎年1名				1名			
検証			【達成】 合格者2名が増員				【未達成】 0名				【達成】 1名が増員			
○ 担い手への出向く体制の充実			指導課											
・白根、八田ブロック			指導課				常時6名				課長代理1名、中堅4名、若手1名			
検証			【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール			
・若草、甲西ブロック			指導課				常時6名				主査役1名、中堅2名、若手3名			
検証			【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール			
・楡形ブロック			指導課				常時3名				課長1名、中堅0名、若手2名			
検証			【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール				【継続】 農繁期を中心に定期的な園地巡回・指導および青色パトロール			

○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○統一に向けた取り組み	営農指導部													
○基準の統一	指導課													
・李、葡萄の品種格付け基準の統一	指導課	基準の統一	全品種の各付け基準の設定				継続				実行			
検証			【継続】生産組織において継続検討				【継続】生産組織各専門委員において継続検討				【継続】生産組織各専門委員において継続検討			
・貯蔵花粉関係の統一	指導課	容器の統一	容器等資材の試験				一部変更し実行							
検証			【継続】現容器からの変更				【一部変更】容器統一と並行し桜桃の受粉用品種（ぼれん太）は開花期が早く生花粉へ移行予定で容器不要へ							
・開葯器関係の統一（利用基準）	指導課	基準の統一	利用状況の把握				利用基準の統一							
検証			【達成】開葯器78器、採取器33機所有				【達成】利用基準を設定							
○担い手に向けた取り組み	営農指導部													
○改植推進	指導課													
果樹の改植推進	指導課	毎年10ha	10ha				10ha				10ha			
検証			【未達成】4.4ha事業実績(改植)				【未達成】55圃場4.9ha事業実績(改植)				【未達成】60圃場5.3ha事業実績(改植)			
○大苗推進	指導課													
果樹の大苗推進	指導課	毎年500本	500本				500本				500本			
検証			【達成】650本実績 桃・李・桜桃				【達成】650本実績 桃・李・桜桃				【達成】650本実績 桃・李・桜桃			
○増殖の推進	指導課													
モモ 夢みずき	指導課	3年間で8000本	2,500本				3,500本				2,000本			
検証			【未達成】2,329本実績、桃出荷者の品種の切り替えが年度を分散している				【未達成】苗1860本供給				【未達成】苗1068本供給			
スモモ 皇寿	指導課	3年間で1000本	400本				300本				300本			
検証			【未達成】328本実績、李出荷者の品種の切り替えが年度を分散している				【未達成】苗215本供給				【未達成】苗171本供給			
ブドウ シャインマスカット	指導課	3年間で2200本	1,000本				700本				500本			
検証			【未達成】950本実績、需要が多く供給が間に合わない状況です				【達成】苗954本供給				【達成】苗899本供給			
オウトウ 甲斐ルビー	指導課	3年間で1500本	500本				500本				500本			
検証			【達成】760本実績				【未達成】苗97本供給				【未達成】苗163本供給			

○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○担い手に向けた取り組み	営農指導部													
○甲斐路転換対策	指導課													
ブドウ 甲斐路の縮小面積	指導課	3年間で21ha	6ha				7ha				8ha			
検証			【達成】収量311t 前年比69%減面積7ha				【継続】収量361t 各生産者計画的切替中と思われる（シャインマスカット又は甲州へ3.1ha）				【継続】収量239t 各生産者計画的切替中と思われる（シャインマスカット又は甲州へ7.6ha）			
○シャインマスカットの糖度保証	指導課													
ブドウ シャインマスカットの糖度保証	指導課	30年度に220t	モデル園の設置（5ヶ所白根八田若草櫛形甲西）				200t				220t			
検証			【達成】栽培講習園の設置（各支所、支部）				【達成】18度以上基準を指導員が巡回測定し216t。（甲斐360t、巨320t）				【達成】18度以上基準を指導員が巡回測定し283t。（巨272t、ヒ137t）			
○スモモ「貴陽・皇寿」の雨除け施設の推進	指導課													
スモモ 貴陽・皇寿の雨除け面積	指導課	3戸	実用化調査研究				300万×3戸							
検証			【達成】管内既存施設及びV字棚の調査の実施				【継続】県域企画応援事業助成金を活用推進				【未達成】県域企画応援事業助成金を活用によりモデル園の設置1園確定			
○あんぼ柿施設の普及推進	指導課													
カキ あんぼ柿乾燥施設	指導課	6戸	実用化調査研究				300万×6戸				事業終了			
検証			【達成】国補にて11件1,425万円				【達成】国補にて34件8,000万円							
○農作物の盗難防止装置の推進	指導課													
農作物の盗難防止装置の設置	指導課	6戸	実用化調査研究				電波受信本機2台+50万×30施設				運用開始			
検証			【達成】桜桃、葡萄にて実用試験実施				【達成】県・市事業2600万円				桜桃23園、桃李3園、葡萄27園（シャ25）計53			
○貯蔵技術施設の研究	指導課													
ブドウ シャインマスカットの氷感施設利用	指導課	30年度に1000kg	実用化調査研究				600kg				1,000kg			
検証			【達成】福島県での実用試験実施30日～90日貯蔵				【達成】1,325kg				【達成】2000kg			
○果樹の授粉用花粉の確保と斡旋	指導課													
スモモ ハリウッドの作付面積	指導課	3年間で30a	10a				10a				10a			
検証			【未達成】実用化調査				【未達成】今諏訪、鏡中條地域で園地選定中				【未達成】今諏訪、鏡中條地域で園地選定中、問題は水源の確保			
オウトウ ぼれん太 フランスワン作付面積	指導課	3年間で30a	10a				10a				10a			
検証			【未達成】実用化調査				【未達成】今諏訪、鏡中條地域で園地選定中				【未達成】今諏訪、鏡中條地域で園地選定中、問題は水源の確保			

○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○担い手に向けた取り組み	営農指導部													
○遊休農地の解消	指導課													
遊休農地の解消面積	指導課	3年間で15ha以上	5ha				5ha				5ha			
検証			【達成】実績7.1ha				【達成】実績5.7ha				【達成】実績5.4ha			
○安定生産施設の整備	指導課													
果樹用開葯器の整備	指導課	30年度に20台確保	調査検討				10台							
検証			【継続】				【達成】現状の台数の部品を確保したため新規購入の必要はなし							
○土づくり対策の推進	指導課													
優良堆肥の供給	指導課	30年度に300ha	100ha				150ha				300ha			
検証			【未達成】130ha実績				【未達成】前年より増えるも目標には届かない134ha				【未達成】前年より減り105ha			
有機100%オリジナル配合肥料の普及	指導課	30年度に50ha	50ha				50ha				50ha			
検証			【未達成】15ha実績				【未達成】原料（魚かす）の高騰、生産工場機械の故障もあり、供給時期に間に合わず、30ha				【達成】専用ペレットを小量化の15kg袋に替え省力化を図り326ha			
○果樹新品種の栽培基準	指導課													
シャインマスカット・夢みずき・皇寿・甲斐ルビー	指導課		シャインマスカット				夢みずき				皇寿・甲斐ルビー			
検証			【達成】県オリジナル協議会作成				【未達成】県オリジナル協議会にてH30作成予定				【未達成】県オリジナル協議会にて2019年作成予定			
○病害虫防除暦の編成	指導課													
病害虫防除暦の検討	指導課		防除基準の見直し、新農業展示ほの成績検討				防除基準の見直し、新農業展示ほの成績検討				防除基準の見直し、新農業展示ほの成績検討			
検証			【達成】見直しをし29年度反映				【達成】ぶどう開花期のベト・バンブ病剤の徹底、すもものシンクイ虫の早期防除の徹底を反映				【達成】ぶどう開花期のベト・バンブ病剤の徹底、もも・すもも・おうとうのアブラ・カイガラ虫の防除の徹底を反映			
○地理的表示保護制度及びやまなしGAP	指導課													
地理的保護制度への申請	指導課		実用化調査研究				ネーミングの決定				実用出荷			
検証			【継続】南アルプス・貴陽、大和百目など				【継続】「南アルプス貴陽」				【継続】「南アルプス貴陽」として個装詰め400c/s			
やまなしGAP認証制度	指導課						研修会参加				周知			
検証			新規				【達成】組合員に対して研修会を行い周知しました				生産組織各支部			

販売部 自己改革工程表

○ ビジョン・めざす姿：『農業者の所得増大』			販売取扱高目標（現行 44億円 2016年度 50億円 2017年度 50億円 2018年度 50億円）											
○ 重要成功要因：『販売力の強化』			南アルプスブランドの普及、高品質生産の販売											
○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○ 「南アルプス」ブランドの普及			販売部				H29年度は李・桃が7/20、葡萄が9/5、あんぼ10/26、葡萄では品評会によるシャインマスカットの競売により1房化粧10万円の値段が付きました。				桜桃5/29東一トップセールズ 桃7/2福岡岩田屋試食販売 桃7/3福果トップセールズ 李7/19貴陽品評会 李7/20東一市合同トップセールズ 葡萄8/25京浜地区トップセールズ 葡萄9/3YIP品評会 葡萄9/4東一トップセールズ 9/5-7香港山梨果実フェア ヨン アホ 10/26 トップセールズ東一			
○ 南アルプス市と連携した普及			販売課											
・トップセールスの開催			販売課				年2回				1回 1回			
検証			【達成】 李・桃、葡萄、あんぼ柿 3回				【達成】 李・桃、葡萄、あんぼ柿 3回				【達成】 桜桃・李・桃、葡萄、あんぼ柿 5回			
○ 付加価値販売			販売部				280g以上を1個単位で受付、卓上センサーで糖度を計り、糖度保障の1個玉販売を行い、1玉600円前後の販売となりましたが天候不順等により出荷量は減少しましたので目標600kに対して出荷量は500kに終わってしまいました。				280g以上を1個単位で受付、卓上センサーで糖度を計り、糖度保障の1個玉販売を行い、1玉600円前後の販売となりましたが李全体が小玉傾向により目標1,000kに対して出荷量は152kと大幅な減少となりました。			
○ 糖度センサーを活用した販売			販売課											
・貴陽の大玉、糖度保証による差別化販売			販売課				2018年度に1,000kg				300kg 600kg 1,000kg			
検証			【達成】 560kg				【達成】 500kg 天候不順出荷量減少 【未達成】 100kg				【達成】 152kg 小玉で出荷量減少 【未達成】 848kg			
○ 貯蔵技術を活用した販売			販売課				H29年は試験運用を行い5k計で265kg、1,325kgの貯蔵を行いました。10月に入庫しクリスマス需要に合わせて出荷を行いました。市場評価もよくH30年度の予約もすでに入っております。H30年は長期保存と出荷ピークをずらす短期の貯蔵を行い、単価の谷を浅くし有利販売に活用します。尚、電気代等の経費を十分検証しながら施設を有効利用してまいります。				貯蔵技術を活用した販売は、現在5k計で400kg、2,000kgの貯蔵しています。今年度は9月末からの長期の入庫を予定しましたが、台風など雨天が続く玉割れ等発生し品質的に貯蔵が利かないなど問題があり思うような入庫が進んでいないのが現状です。ふるさと納税を中心に贈答の需要が多く、又市場の出荷要請も多く来ておりますので、有利販売に繋げてまいります。12月から出荷を予定しています。			
・シャインマスカットの氷感施設利用			販売課				2018年度に1,000kg				試験 600kg 1,000kg			
検証			【達成】 氷感庫施設を利用した試験				【達成】 1,325kg クリスマス等贈答販売				【達成】 2,000kg ふるさと納税・市場他販売			
○ 直売所の集客			販売部				各種記念日に合わせて開催致しました。							
○ イベント開催・集客拡大			直売所											
・桜桃（さくらんぼの日）			直売所				年1回				1回 6/2			
・李・桃（すももの日・ももの日）			直売所				各年1回				2回 7/9ピーチバレンタインデー 7/24すもも			
・ぶどう（ぶどうの日）			直売所				年1回				1回 9/23			
・あんぼ柿（柿の日）			直売所				年1回				1回 10/26			
検証			【達成】 果物等記念日に開催				【達成】 果物等記念日に開催				【達成】 果物等記念日に開催（今年度より野菜の日開催）			

○ 重点施策・行動計画	責任部署	目標値	2016年度（H28年度）				2017年度（H29年度）				2018年度（H30年度）			
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
○市場動向に基づく販売	販売部							産地情報の発行と作柄調査後、主要市場との品目別出荷会議、仲卸・量販店のバイヤーを含めた計画販売の商談を品目ごとに行いました。					産地情報の発行と作柄調査後、主要市場との品目別出荷会議、仲卸・量販店のバイヤーを含めた計画販売の商談を品目ごとに行いました。	
○安全・安心・美味しい農産物の安定出荷販売	販売課													
・市場等と連携した計画販売と情報交換の実施	販売課	年5回	5回				5回				5回			
検証			【達成】 桜桃、桃・李、葡萄、柿、野菜				【達成】 桜桃、桃・李、葡萄、柿、野菜				【達成】 桜桃、桃・李、葡萄、柿、野菜			
○販売チャンネルの多様化								郵便局・全農食品・ネット販売・ふるさと納税返礼品等に取り組んでいます。特にシャインマスカットが人気でH29年度ふるさと納税で1万2千本の発送を行い、H30年度は2万4千本の発送を予定しております。					桜桃 7,180ケース りんご 4,821ケース 桃 38,701ケース 葡萄38,616ケース りんご 柿 100ケース（予定）	
・郵便局、全農食品のカタログ、ネット販売、輸出対策等	販売課	2018年度に12,500万円	9,700万円				11,100万円				12,500万円			
検証			【達成】 11,200万円				【達成】 13,000万円				【達成】 22,100万円			
・直売所販売（売上）	販売課	2018年度に25,000万円	23,000万円				24,000万円				25,000万円			
検証			【達成】 28,000万円				【達成】 30,900万円				【達成】 27,000万円			
○消費宣伝対策	販売部													
○市場での試食宣伝会	販売課							トップセールス時に消費宣伝会を行っております。今年度は5/26にさくらんぼフェス、5/29に市と連携しさくらんぼのトップセールスを大田市場において行います。					今年度4回のトップセールスを大田市場で行う時に合わせて量販店で消費宣伝会を行いました。また、今年度は7/2福岡岩田屋桃試食販売、先着100名様桃プレゼント、7/14オギノ2店による試食販売会も行いました。	
・消費宣伝会開催	販売課	年2回		1回	1回			1回	1回			1回	1回	
検証			【達成】 桃・李、葡萄、あんぼ柿、3回				【達成】 桃・李、葡萄、あんぼ柿、3回				【達成】 桜桃・李、桃、葡萄、あんぼ柿、5回			
○販売協力店設置	販売課							都内スーパー三徳にてJA南アルプス市の桜桃からあんぼ、キウイまでリレー販売を行っております。					都内スーパー三徳にてJA南アルプス市の桜桃からあんぼ、キウイまでリレー販売を行っております。	
・リレー販売	販売課	1店	1店				1店				1店			
検証			【達成】 スーパーで実施				【達成】 スーパーで実施				【達成】 スーパーで実施			
○統一に向けた取り組み	販売部							出荷容器の検討を専門員会で行い、葡萄・李は統一のDBになりましたがH30年は資材の値上げもあり、現行のJAこま野のDBを使用しますが新デザイン、JA南アルプス市に変えるタイミングで箱の統一を行います。					出荷容器の検討を専門員会で行い、葡萄・李は統一のDBになりましたがH30年は資材の値上げもあり、現行のJAこま野のDBを使用しますが新デザイン、JA南アルプス市に変えるタイミングで箱の統一を行います。	
○基準の統一	販売課													
・李・ぶどう出荷要領の統一	販売課	2018年度に実施	策定				策定				策定			
検証			【継続】 資材容器提案				【継続】 出荷容器検討				【継続】 2019年より新デザインで統一			